

株式会社 新洋舎

DX宣言書

2026年5月12日
株式会社 新洋舎
代表取締役 後藤 守

□ 経営理念

わたくし達は仕事を通じ自己の可能性に挑戦しつづけ夢ある豊かな島づくりに貢献します

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 高品質なサービスを維持し続けることでお客さまからの信頼を守り、リネンサプライ・クリーニング業界において佐渡No.1の企業であり続けます
- ◆ 社員自ら考え、品質改善に取り組む組織風土を醸成します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ~ 2027年3月)

戦略 「品質管理基盤の構築」

- 施策
- 品質や優位性の向上に向けた他社事例の勉強会や施策立案のワークショップを開催
 - 品質判断のバラつき解消と不良品流出防止に向けて、顧客からの指摘事例を基に不良品の定義および不良判断基準を明確化し、社内でも共有
 - 日常業務における品質に関わる事象の振り返りを具体的な改善行動に繋げるため、発生事象の整理・原因の特定・対応策の決定までを実施
 - 品質改善の実効性向上に向けて、工程ごとの担当範囲および責任の所在、改善ポイントを明確化
 - 活発な改善活動に向けて、社員の取組姿勢および成果を適正に評価する制度への見直しを開始

➤ フェーズ2(2027年4月 ~ 2028年3月)

戦略 「品質向上と業務効率化に向けた改善施策の実行」

- 施策
- 継続的な品質改善を進めるため、朝会等で日常業務での気づきを共有し、小さな改善から実行・検証
 - 改善活動の定着に向けて、改善提案数や改善成果を評価に反映する制度の運用を開始
 - 受付時の品物状態をタブレット等で画像記録し、後工程の確認作業を効率化
 - 不良検知精度の向上と品質の安定化に向けて、明確化した品質基準の運用および定着を推進
 - 品質改善と作業実績の可視化に向けて、RFIDタグを活用した製品管理の仕組みの導入を検討(工程ごとの履歴把握による不良原因の特定や人事評価への活用を想定)

➤ フェーズ3(2028年4月 ~ 2029年3月)

戦略 「継続的なDX推進と持続的成長に向けた基盤強化」

- 施策
- 検品精度向上と手戻り削減に向けて、AI・センサー等を活用した不良検知自動化の仕組み導入を検討(例:AIエージェントでシミの種類や経過時間を推測し、最適な処理方法を自動提案・追加料金発生等を顧客へ迅速に報告)
 - 業務効率化に向けて、販売管理システムを導入し、請求・入金・在庫管理業務をデジタル化
 - 収益基盤の強化に向けて、ユニフォームレンタルや預かりサービス、島内宿泊施設と提携した新規事業等を企画・検討

□ DX推進体制

- 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- 不良品率 : 3%以内(~2029年3月)
- 社員からの提案数 : 月2件以上(2027年4月~)